

一般演題 高気圧酸素治療の臨床① OP5-1 遅発性低酸素白質脳症の回復過程を示唆するもじもじ徴候 (fidgeting)

○陣上直人^{1,2,3)} 新田孝幸²⁾ 小林勝哉^{3,4)}
下竹昭寛^{3,4)} 池田昭夫^{3,4)} 大鶴 繁^{1,2)}

- | |
|--------------------------------|
| 1) 京都大学大学院医学研究科 初期診療・救急医学 |
| 2) 京都大学医学部附属病院 高気圧酸素治療センター |
| 3) 京都大学大学院医学研究科 臨床神経学 |
| 4) 京都大学大学院医学研究科 てんかん・運動異常生理学講座 |

【背景】

低酸素脳症において、治療介入により低酸素血症や意識が改善しても、数週間後に高次脳機能障害、錐体外路・精神症状などを呈する遅発性低酸素白質脳症 (Delayed Post-Hypoxic Leukoencephalopathy : DPHL) を発症することがある。低酸素に一酸化炭素 (CO) や薬物の毒性が加わると惹起されやすく、Delayed Neurological Sequelae を呈する間歇型 CO 中毒も DPHL に含まれる。DPHL への HBO の有効性は未確立だが奏効例もある。複数の DPHL 症例で HBO 中に両手をもじもじする動作 (fidgeting) を認め、その後の HBO が神経症状の改善に寄与した。

【症例】

症例 1 : 間歇型 CO 中毒。40 代女性、CO 曝露後 46 日目の MRI で淡蒼球、白質病変を認めた。53 日目に HBO 開始し、2 回目に fidgeting を認め、計 19 回実施した。

症例 2 : 間歇型 CO 中毒。40 代男性、CO 曝露後 48 日目の MRI で淡蒼球、白質病変を認めた。62 日目に HBO 開始し、2 回目に fidgeting を認め、計 20 回実施した。

症例 3 : DPHL。40 代男性、オピオイド中毒後に一旦寛解するも 25 日目の MRI で淡蒼球、白質病変を認めた。58 日目に HBO 開始し、9 回目に fidgeting を認め、計 63 回実施した。

【考察】

全例で大脳基底核病変を認め、HBO の治療中に fidgeting を認めた。fidgeting は前頭葉・側頭葉てんかんの発作中に見られる症候であり、基底核や大脳辺縁系への刺激が関与する。DPHL での fidgeting は各種神経症状が改善する前の段階で見られ、HBO が先行して辺縁系を賦活化したと考えられる。どのような DPHL の症例に HBO が有効かを判断する指標が求められているが、fidgeting は DPHL の改善過程を示す可能性があり、fidgeting を認めた際には継続的な HBO によりさらに神経症状が改善する可能性がある。